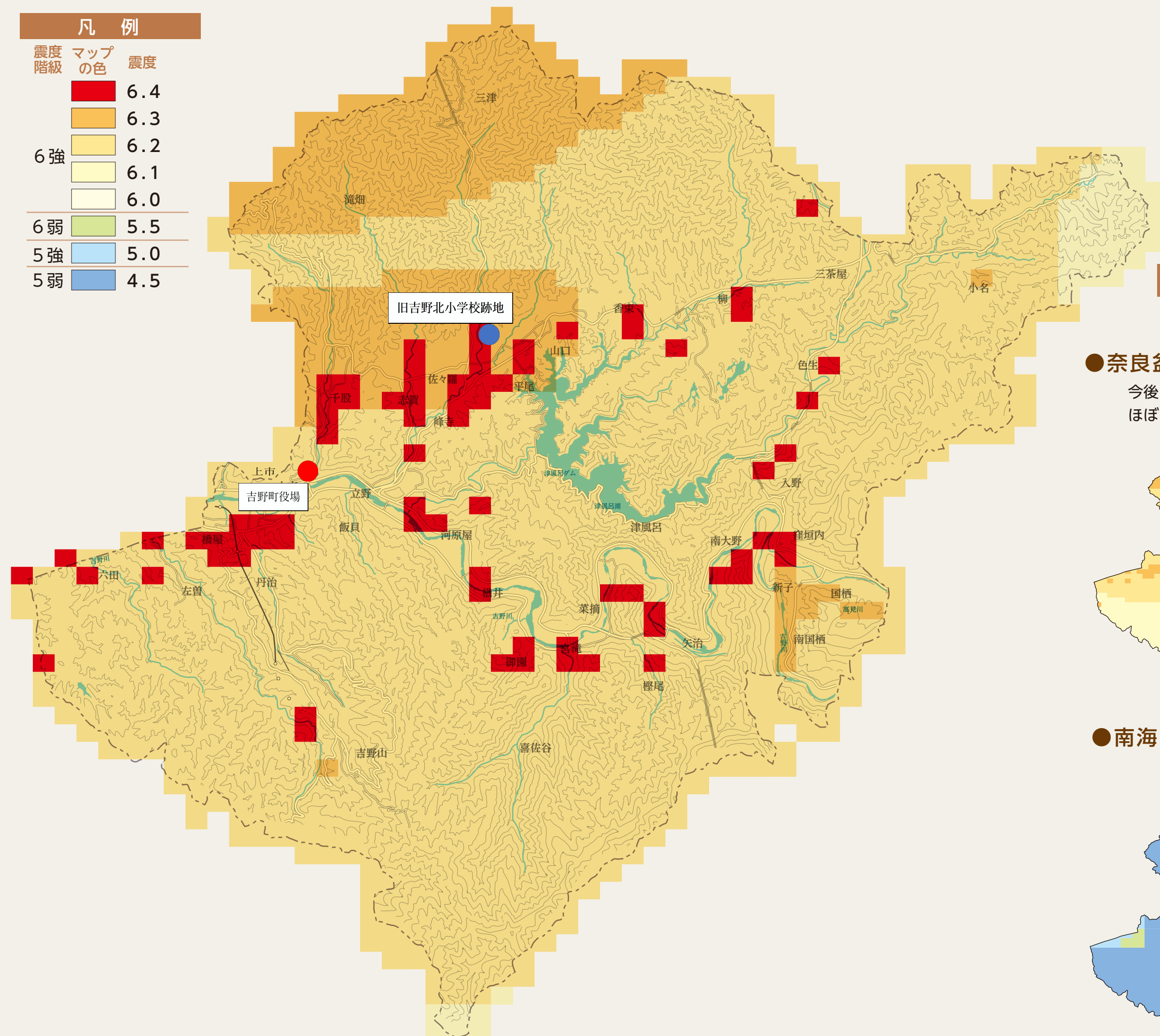


揺れやすさマップ



揺れやすさマップは、吉野町への影響が大きいと想定される「活断層地震」および「海溝型地震」の予測震度を重ね合わせて、それぞれの地域で生じる恐れのある最大の揺れを表したものです。

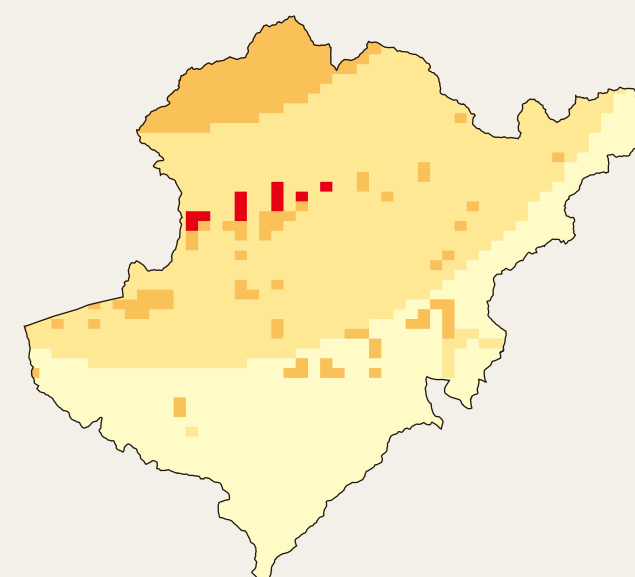
したがって、実際に地震が発生した場合には、予測されたとおりの震度の揺れが生じるとは限りませんが、最大の揺れに対する日頃からの備えを心がけましょう。

想定地震別の震度分布図

出典：第2次奈良県地震被害想定調査報告書（平成17年3月）
（発生確率は地震調査研究推進本部の公表値〔2020年1月24日公表〕による）

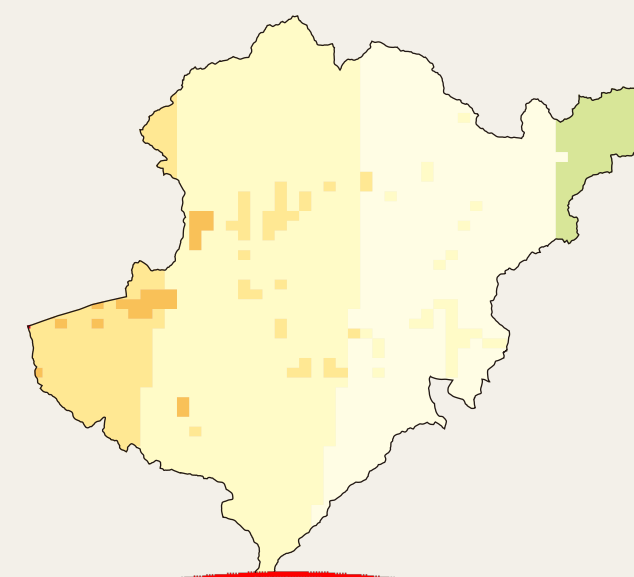
●奈良盆地東縁断層帯

今後30年以内の発生確率
ほぼ0~5%



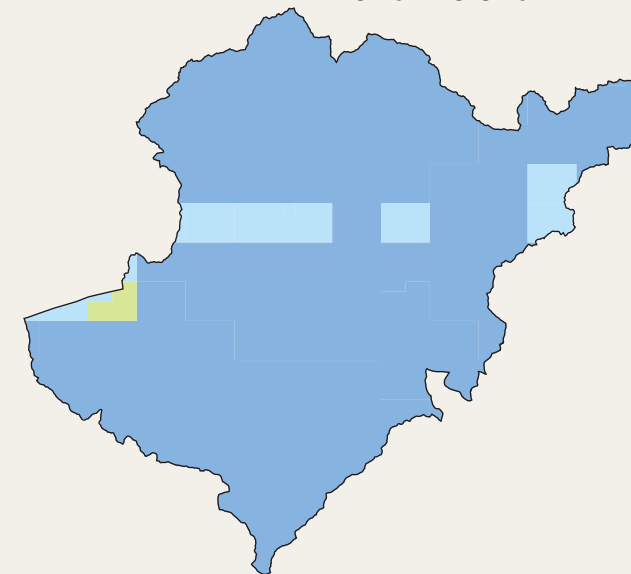
●中央構造線断層帯

今後30年以内の発生確率
ほぼ0～1%



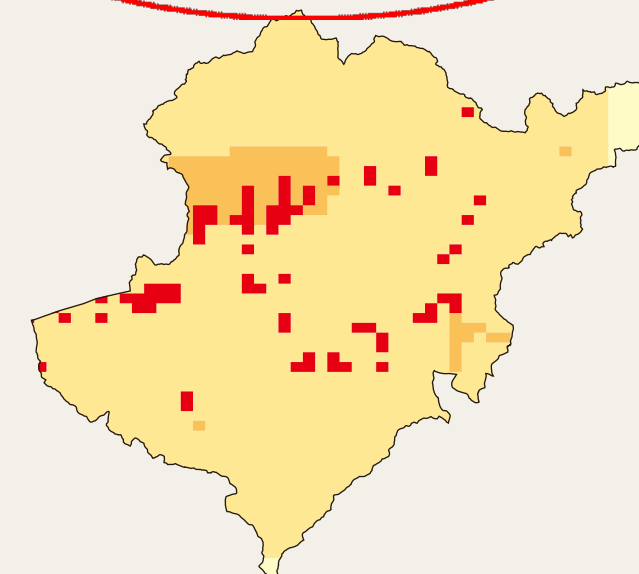
●南海トラフ地震

今後30年以内の発生確率
70%~80%



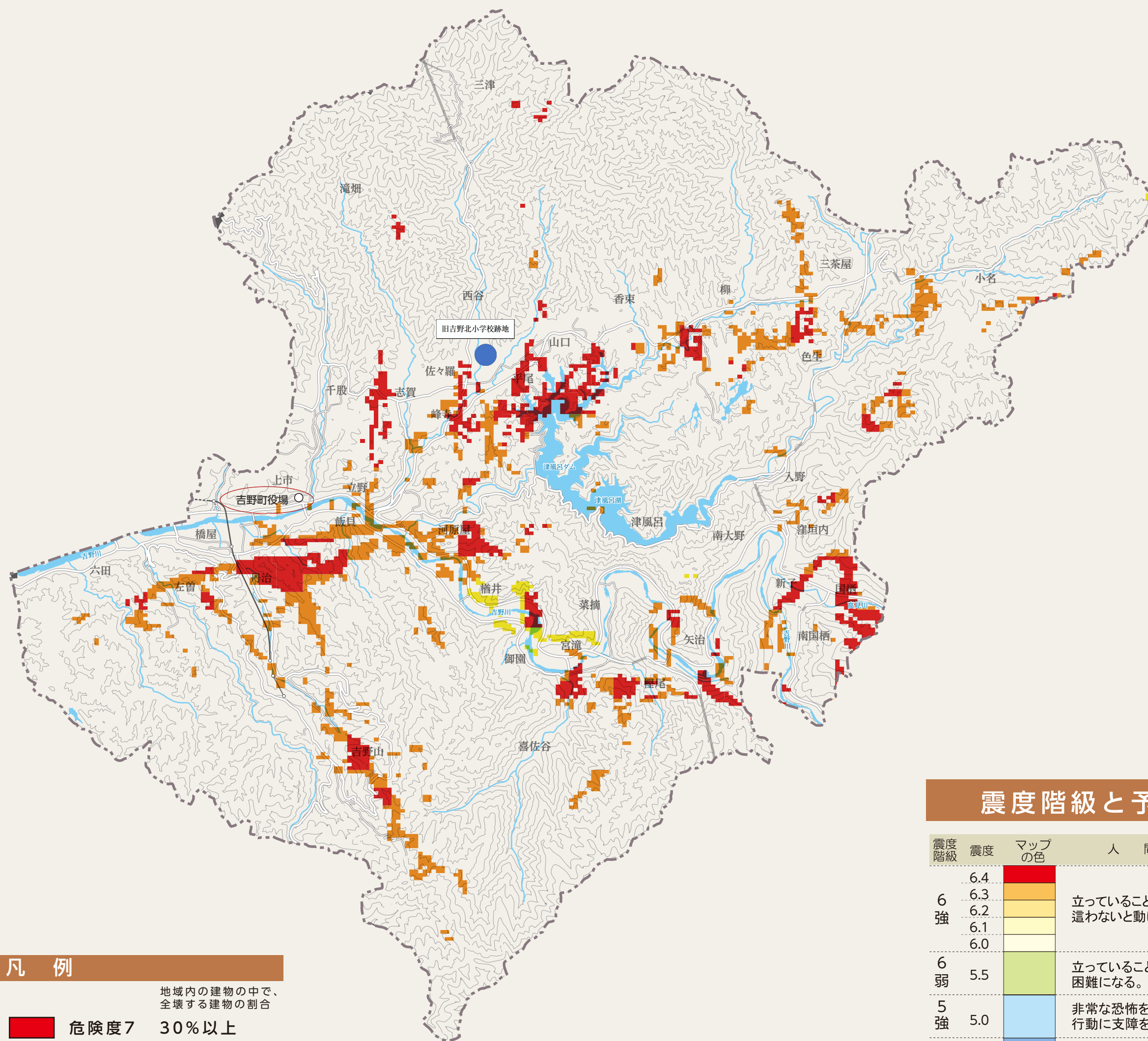
●千股断層

発生確率については発表なし



※東南海・南海地震が同時発生した場合

危険度マップ



凡 例

地域内の建物の中で、全壊する建物の割合		
	危険度7	30%以上
	危険度6	20～30%
	危険度5	10～20%

危険度マップは、地震による揺れによって発生する建物被害の状況を、相対的に表したもので、「揺れやすさマップ」で示した最大の揺れとなった場合に、建物に被害が生じる程度を「危険度」として表しています。

大きな地震が発生すると建物が倒壊し、家具の下敷きになるなどの被害が生じます。また、道路や電気、ガス、水道などのライフラインの寸断、火災の発生など、大きな被害に発展する恐れがあります。大きな地震から人命や財産を守るためには、住宅などの耐震化が必要です。

耐震診断・耐震改修について

まずは耐震診断を

町では、「耐震診断」及び「耐震改修」を実施する方に対して、その費用の一部を助成します。

耐震診断

木造住宅(昭和56年5月31日以前に建築されたもの)の耐震診断が対象です。

耐震改修

木造住宅(昭和56年5月31日以前に建築されたもの)の耐震改修が対象です。



耐震診断及び耐震改修についての問い合わせ先
吉野町暮らし環境整備課まちづくり振興室
TEL 0746-32-8844(直通)

震度階級と予想される被害

震度階級	震度	マップの色	人 間	屋内の状況	屋外の状況	耐震性の低い木造建築
6 強	6.4		立っていることができず、這わないと動けない。	重い家具のほとんどが移動、転倒する。戸が外れて飛ぶことがある。	ブロック塀のほとんどが崩れる。	倒壊するものが多い。
	6.3					
	6.2					
	6.1					
	6.0					
6 弱	5.5		立っていることが困難になる。	重い家具の多くが移動、転倒する。	かなりの建物で、壁のタイル、窓ガラスが破損、落下する。	倒壊するものがある。
5 強	5.0		非常な恐怖を感じる。行動に支障を感じる。	重い家具が倒れることがある。	多くのブロック塀が崩れる。多くの墓石が倒れる。	壁や柱がかなり破損したり、傾くものがある。
5 弱	4.5		身の安全を図ろうとする。	棚の食器類が落ちることがある。	ブロック塀が崩れることがある。	壁や柱が破損するものがある。